

ひしお通信

30号

2011年5月発行
編集発行：勝山文化往来館ひしお
岡山県真庭市勝山162-3 〒717-0013
TEL&FAX 0867-44-5880
URL: <http://www.hishioarts.com>



勝山文化往来館ひしお 6周年にあたって

館長 加納 容子

まずは、このたび東日本を襲った大震災にて被災された方々に謹んでお見舞いを申し上げますとともに、未だ厳しい状況の続く被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げます。

さて、この状況下ではありませんが、この5月で『勝山文化往来館ひしお』が、皆様のご理解・ご協力のもと、6周年を迎えることができましたことを心から感謝いたしますとともに、ここに報告させていただきます。

平成17年に、私たちは「特定非営利活動法人(NPO法人) 勝山・町並み委員会」を発足させ、当時、産声を上げたばかりの真庭市からこの施設の指定管理者として運営委託を受けて以来、様々な催しを行ってまいりました。

当初より、試行錯誤の連続でしたが、皆様の温かいご支援のもと、初代・辻ひろこ前館長、小林孝前副館長は、『ひしお』が文化往来の基点となるよう、海外、特にヨーロッパ、アメリカから様々なアーティスト、ミュージシャンをお招きするなど、積極的な国際交流を通して勝山に新鮮な文化の風をもたらし『ひしお』の文化活動の礎を築きました。

平成20年には、福武教育文化振興財団より受賞した福武文化賞をはじめ多くの評価を得たことは、私たちの自信となつ

ております。

平成21年10月からその任を私が引き継ぐことになったとき、前任の2人の多大な尽力を前にして何をしたらよいか、を自問しました。そして私なりに出来る得る2つの活動方針として『勝山を中心とした地域に在住する作家と共にを行う文化活動』『アジアの文化との交流』をたて、館長に就任しました。

その実現は未だ端緒にいたばかりですが、昨年の秋には地域の住民有志、作家とともに行った『岡野屋旅館プロジェクト』『アジアとの交流を目的に行った『日韓現代美術『紙』往来展』を開催することができました。

勝山文化往来館ひしお 2月～4月に開催された企画



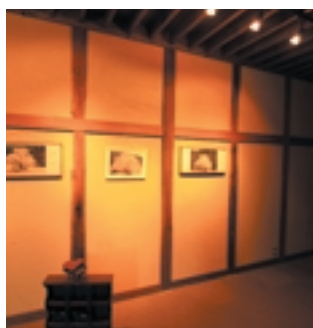
3月3日(木)～3月13日(日):企画展『ひしおが描く 京友禅とお雛さま』京都から、川邊善司氏、川邊祐之亮氏を迎え、雅な色裏(いろかまね)と絵画としての京友禅を展示しました。



2月18日(金):『景観形成セミナー』金沢21世紀美術館 館長の秋元雄史氏が真庭市雇用創造協議会主催のセミナーで来館。ご自身の体験からの講義に来場者は聞き入りました。



4月12日(火):写真展審査風景
応募があった121点の中から、実行委員の方々、実行委員長賞・真庭市長賞・ふれあい賞・ほのほの賞他20点の入賞作品を選びました。



4月9日(土)・10日(日)
個展『旅人が残した物再び』
棚田広行(河内裕隆)氏が津山市阿波にある「尾所(おそ)の桜」を写した写真の展覧会を開催しました。



今年も、地域の皆様のご協力を得ながら開催する展覧会『Living in Arts project』と、真庭の伝統工芸である『郷原漆器』の支援を目的とした企画展を行います。
背伸びすることなく、まずは出来ることから実現していくことを心がけて皆様とともに楽しめる文化活動を目指していきたいと思っております。
今後とも、変わらぬご支援いただきませう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

『勝山、感動の交流』

まずは今回「京友禅とお雛さま」展覧会場にお越しくださった皆様にご心から御礼申し上げます。この展覧会の10日間は、私たちにとって一生忘れる事が出来ない時間となりました。京都から車で4時間、勝山の町におじゃました時、初めてなのに何故か故郷に帰ってきたかのような居心地の良さを感じたのは不思議でした。旭川の清らかな水、澄んだ空気、山々の深い緑、それに整然と並ぶなまこ壁の街並みや石畳の美しさ。それにもまして我々の心を和ませてくれたのは、勝山の方々の温かいお人柄でした。お雛さまを飾り付けられているお家のご当主、町で出会った小学生、犬の散歩途中のご婦人も、私たちの姿を見かけると「こんちは！」と気持良くご挨拶をいただきました。人が町をつくり、町が人をつくるといいますが、まさに美しい勝山の町は、

4～6月の予告

(平日の水曜日は休館です)

『勝山のお雛まつり写真展』

日時◆4月29日(金)～5月10日(火)
会場◆勝山文化往来館 ひしおホール
入場料◆無料
公募した勝山のお雛まつりの写真が「ひしお」をはじめ、勝山の町中に展示されます。

『ひしお手作り市』

日時◆5月1日(日)
会場◆勝山文化往来館 ひしお内
ひとつひとつ手作りによる品々を販売する市を開催します。(のれんスタンプラリーも同時開催!)

『フラメンコの夕べ』

日時◆6月12日(日) 午後6時～
会場◆勝山文化往来館 ひしおホール
入場料◆2,000円
ギター・カンテ(歌)、踊りの方をお招きしての6周年記念イベント。是非スペイン文化を体感あれ。

【ひしお講座 現在開講中!】

『藍染教室』
日時◆5月16日(月)・6月6日(月)10:30～15:30
講師◆加納容子
参加費◆1人1回5,000円
(染料代とハンカチ1枚の材料代込み)

『手織り教室』

日時◆5月17日(火)・6月14日(火)10:30～15:30
講師◆原田豊美
参加費◆1人1回5,000円+糸代実費

『手作り簡単お菓子教室』

日時◆5月27日(金)19:00～
講師◆岡田聖子
参加費◆1人1回1,000円+材料代
(持参物等、お問い合わせはお気軽に電話44-5881まで)
年齢を問わず、初心者の方から始められます。随時受け付けております。どうぞお誘い合わせの上、お申込みください。(要予約)
●催しに関するお問い合わせは
ひしお事務局 ☎44-5880まで



川邊善司氏によるワークショップ「手描友禅染」

勝山の人そのもののように思えてなりません。

また今回の展覧会では勝山や近隣地区のたくさんの方々とは直接お話できたのも私たちにとってとても有意義でした。特に印象深かったのは、和の文化を残そうとされる姿勢が、京都のそれよりもむしろ高いモチベーションで維持されている事のすごさでした。今では京都も東京な

どの資本が多く入り、行き過ぎた観光化のため本来の姿や心を失ってしまったものも沢山あります。地元の文化をうまく残し、自分たちの未来へ繋げようとする勝山の取り組みを京都も見習うべきかと感じています。

今回はそんな勝山のファンになってしまいました。いつの日か皆様と再びお会いできる事を楽しみにしております。最後になりましたが、本展覧会を支えてくださったひしおのスタッフ、ならびに関係者各位に改めて御礼を申し上げます。ありがとうございます。

(川邊祐之亮)

『お鍋ごはん』

この度の東日本大震災により被災された皆様には心よりお見舞いを申し上げます。皆様の安全と一日も早い復旧を心よりお祈り申し上げます。今回の地震で私

も色々なことを考えましたが、やはり人間ごはんを食べ、寝る。このことができなければ何も始まらない、始められないのでは?と思いました。
そこで今日は電気がなくてもご飯が炊ける方法をご紹介します。簡単ですので覚えていて損はないと思いますよ!

《必要な物》

ふた付き鍋、ガスコンロ(卓上でも可)、米、計量カップ、水

《手順》

- ①米3合に対し水600cc。
(米1合ですと水200ccになります。)
- ②米を洗い、1時間程度浸水させておく。
(すぐ火にかけても炊けますが浸水時間が短い場合は水量を気持ち多めの方がいいと思います。)
- ③鍋にふたをして強火にかける。
- ④沸騰したら弱火で10分～15分。
- ⑤火を消す前に5秒ほど強火にする。
- ⑥火を消して10分程度蒸らしてできあがりです。



鍋の厚さや大きさによって炊き上がりが違ってきますので、停電でないときに何度か練習してみてもいいかと思えます。炊飯器よりも早く炊けるといふ利点もありますのでお試しください。

